

vol. 2290

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL/(097)556-2838 FAX/(097)556-8998 MAIL/ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！
— 大分高教組 第70次県教研開催

日々向き合う子どもたちの姿をスタートに、つどい、語ろう、明日の教育を！

大分高教組 第70次県教研開催

と き 全体会：10月23日(日) 分科会：10月30日(日)

と ころ 大分県教育会館

全体会

県教組と合同で開催する県教研全体会は、大分上野丘高校体育館での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、会場を大分県教育会館多目的ホールに変更しました。

中央大学教授の池田賢市さんの「『学び』の本質をどのように考えるか」と題した記念講演は、「学ぶことのあり方」について、さまざまな切り口から考察されたもので、大変刺激の内容でした。

講演の後には、今年度の大分県高校生平和大使の野田莉々子さん(日田三隈高校)と仲間も参加し、自分たちの活動や「高校生1万人署名」について説明をしました。そして、200名を超える方が「核兵器の使用や威嚇をしないでください！核も戦争もない平和な未来を創ろう！」という趣旨に賛同し、署名をしてくださいました。ありがとうございました。

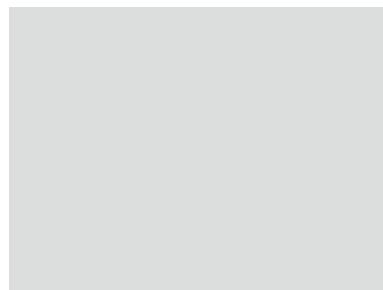
〈参加者の感想〉

○昨今感じている、教育の「新しいスタイル」へのどう言ってもいいかわからない違和感を、整理してもらえた感じでした。でも先生もおっしゃっていたように理想論であって、これを現場でどうすればいいのか全然分かりません。将来のため、選択肢、何度口にしたことか…。

ただ、このように、原点に立ち返り今後の自分の在り方を考えてみる機会を大事にしようと思いました。90分あつという間でした。

○講演の話聞き、自分が生徒に言う言葉に心当たりがあるのにハッと気づかされました。また良いところ探しは、人権学習(平和学習)で行う支援学校が多くあるかと思えます。一見、良い学習だなと思って当時は実践してましたが、今回の講演聞き、良いところ探しの学習は慎重にしなければ、悪いところ探し(監視するクラス)になると思直せました。

○今日の講演を聴きながら、学校現場にいながら、学びの楽しさと出逢うことが本当に少なくなったとしみじみ思いました。国公立大学コースの受験生は、10月は毎週模試に明け暮れ、自信をなくしていきます。総合型選抜や学校推薦型選抜を狙う者は、逆算して生徒会長や留学、ボランティアに取り組みます。「純粋な学び」は、学力や進路とはほど遠いところにあるように感じます。私が純粋な学びの楽しさを見たのは、家庭環境が悪く、家で勉強させてもらえない生徒でした。放課後残って仲間たちと数学を教え合い解き合って、解けた時の喜ぶ顔といたら！池田先生のお話を聴きながら、恵まれない生徒こそ実はたくましく、純粋な学びの楽しさを知っているように改



めて感じました。ちなみにこの生徒が数学を得意とするようになったのは、中学の先生が数学の勉強の仕方を教えてくれたおかげだそうです。県教組の皆さんに、ありがとうございますをぜひお伝えしたいです。この純粋な学びの笑顔を、私たちは忘れないでいましょう。

教科・問題別分科会

第1分科会

日本語教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
定時制高校での表現指導 ～川柳・俳句・短歌・生活体験作文～	佐藤 洋一	中津東定時制
「現代の国語」における、相手に伝える活動について	高橋 貴子	別府翔青
場面に応じた言葉遣いをしよう	河野 淳平	新生支援
書こう！文章修行(その14) おまけ①	福田晃一郎	日田定時制



この分科会に参加してよかった～学校の実態に近い話ことができました～ 大石 恵子(新生支援分会)

今回の日本語教育分科会は、いわゆる進学校ではない学校からのレポートが中心でした。1. 佐藤洋一さん(中津東定時制分会)「定時制高校での表現指導～川柳・俳句・短歌・生活体験作文～」、2. 高橋貴子さん(別府翔青分会)「『現代の国語』における、相手に伝える活動について」、3. 河野淳平さん(新生支援分会)「場面に応じた言葉遣いをしよう」、の3本のレポートをもとに話し合いました。たまたま参加者の半数以上が特別支援学校や定時制高校の経験者という顔ぶれで、様々な校種の視点から意見を交わすことができました。定時制高校や知的の特別支援学校のとりくみの中から、各校の抱える「特性」に起因する(と思われる)問題解決の糸口を得られたようです。また、高橋さんのレポートではICT(メタ文字)活用を通しての音読指導により、生徒の心が開かれていく様や評価するという活動をとおして自己肯定できていく様を知ることでき、ICTを敬遠せず使っていきたい、音読指導を取り入れていきたい、という声が多く聞かれました。

最後に参加者全員が、福田晃一郎さん(日田定時制分会)から「書こう！文章修行(その14)おまけ①」というお土産をいただきました。(参加した若い先生がこれを手にする事ができてよかったです。)

〈参加者の感想〉

- やっぱり参加して良かった。アットホームなつながりの中で各校・各先生の現状や悩みを共有できた、という思いを持つことができました。短い時間だからこそ、あれもこれも言っておかないと、という気持ちになり、みなさんの意見や感想もたくさん聞くことができました。
- 普通科の科目は学校間の指導内容に差があり、自校の実態でつついレポートの内容を捉えてしまいがちである。「教育の現場」と一言で片付けてしまいがちだが、さまざまな実態に柔軟に対応していくためには、出先のことも大切だが、基礎学力だとか真の学力とか、そういったことに留意していかなければいけないな、と示唆をいただいた気がしました。

第3分科会

社会科教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
思考する歴史総合授業 ～ウクライナ戦争より～	田尻 洋佑	中津南
地理総合実施に向けた汎用的な仮説検証型授業の取り組み	氏田 洵悠	国東
構えない主権者教育で授業改善	廣岡 健瑠	別府鶴見丘



知識注入型授業を超えることはできるか？ 田尻 洋佑(中津南分会)

「社会科教育」分科会には9名の先生に参加いただき、提出された3本のレポートについて研究協議が進められた。

当日出席がかなわなかったが、国東分会の氏田洵悠さんによる「地理総合実施に向けた汎用的な仮説検証型授業の取り組み」と題する地理総合における「なぜ？」をベースにした授業構想についてのレポート、中津南分会の田尻洋佑さんによる「思

考する歴史総合授業～ウクライナ戦争より～」と題する実際授業で使ったスライドを示しつつ、継続して実践している「ジグソー法」授業の一例を見せる形の発表、さらに別府鶴見丘分会の廣岡健瑠さんによる「構えない主権者教育で授業改善」と題する、公民の授業における模擬投票の取り組みの成果と課題を中心にした発表が行われた。いずれも社会科授業において知識の定着ではなく、資料にもとづく知識獲得のプロセスが重要であることで課題を共有し、新課程における授業展開のあり方について活発に討議が行われた。

〈参加者の感想〉

- 今回も、レポートを聞いて大変刺激を受けました。参考になりました。
- 初めて参加させていただき、レポート発表もさせていただき、勉強することばかりで大変貴重な時間を過ごしました。来年度は、ブラッシュアップしてより良い発表ができるように頑張ります。

第4分科会

数学教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
初等的にコツコツと分数列の収束を考えてみたりする数学のレポート	沼田 庄司	中 津 東
授業でのアクティブラーニングを目指して	木本 学	中津東定時制

アクティブに「アクティブ」を語ろう 矢野登志勝 (日田林工分会)

「数学教育」分科会は、レポートが2本、参加者が6名と少人数の分科会でした。レポートはアクティブラーニングの取組実践に関するものと円周率 π の近似値に関するもので、参加者全員の自己紹介のあとレポート報告に移りました。1本目のレポートでは、学びに苦しむ生徒の様子や授業改善に向けて試行錯誤するリポーターの様子が、本校の現状と重なり大変共感できるものでした。また、脳がアクティブに活動すればそれは十分にアクティブラーニングだとの意見に、何かヒントをもらえた気がしました。自作教具の紹介では、参加者全員が立ち上がり、生徒になった気持ちで教具に触れ、いろいろな発見があり、まさにアクティブな学びとなりました。2本目のレポートでは、 $\pi > 3.05$ の証明の多角的な考察を、目を輝かせながら拝聴する参加者の姿に「みんな数学が好きなんだな」と感じることができました。

〈参加者の感想〉

- とても良い勉強になりました。
- 新型コロナウイルスが収まって、もっとたくさんの方の参加ができると良いです。

第5分科会

理科教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
MINAMATA ～水銀の毒性とその分析方法～	長尾 秀之	中 津 東
アルデバラン (後に続くもの) ～ミニ教研 (理科サークル) よ永遠に～	堀田 秀俊	安 心 院
物理基礎の授業における仮説実験計画について	武藤 裕一	高 田

興味・関心を高める授業方法 武藤 裕一 (高田分会)

理科教育の分科会は、4名の参加者で行われました。3つのレポート報告がありました。1つ目は安心院分会の堀田秀俊さんのレポートで、サークル活動の必要性について、その活動内容とサークルを継続していくことが課題であると話し合いました。サークル活動から日々の授業実践へとつなげていくこと、ネットワークを広げ情報を共有していくことが必要だと感じました。2つ目は中津東分会の長尾秀之さんのレポートで、水俣病の原因となった有機水銀の毒性と分析方法の研究について報告がありました。高校の化学を教える教員として水俣病について高校生でもわかるよう理科的側面での授業をしたい、という思いから今回の報告となりました。科学の歴史や過去の問題を取り入れ授業に活かすことについて議論が深まりました。3つ目は高田分会の武藤裕一さんの仮説実験についての報告でした。公式を導き出す過程で仮説を立てて生徒に思考させる内容でした。その後、新教育課程の内容や評価

方法についても議論がなされました。多くのことを共有できた良い時間となりました。

〈参加者の感想〉

- 参加者を増やせると良いと思います。小・中との共同実施も検討してもらいたい。
- 我々が生徒に何を伝えるべきなのかを考えるきっかけとなった。

第6分科会

芸術教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
音楽科における言語活動の取り組みについて ～音楽言語の獲得およびその実践過程についての報告～	稲田 雅史	別府鶴見丘

音楽科における言語活動の取り組みについて 藤本 篤司(中津北分会)

本分科会レポート発表者の稲田雅史さんは8年連続のレポート発表となりました。10年ほど前から「言語活動」が重要視されてきた中、稲田先生は大分大学教職大学院に在学したことがきっかけで「言語活動」に取り組むようになり、現在まで研究を進めてこられました。

卒業して役に立つ音楽をしたいとの思いから、アーギュメント(構成要素～主張、論拠、理由付け～)の方法を活用。まず音楽を言語にするためには音楽用語(共通言語)の習得をさせ、音楽を構成する要素(音高、速度、音量、調性)をもとに、生徒が根拠を持って音楽を考える活動を実践されていました。新学習指導要領に沿った具体的な実践であり、他の芸術科の授業にも役立つ分科会活動となりました。討議の柱では、「主体的に取り組む態度」の具体的な評価方法について、「自ら学習を調整する」「粘り強く取り組む態度」をどのように見取るかについて、授業の実際をもとに活発な意見交換が行われました。

〈参加者の感想〉

- リポーター、参加者を増やすと取り組みが必要です。
- 人数が少なかったので、何回も発言する機会があってよかった。



第8分科会

家庭科教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
生徒の「なぜ・どうして・なるほど!」を大切に授業作りを目指して	佐藤 美香	別府鶴見丘

生徒の「なぜ・どうして・なるほど!」を大切に授業づくりを目指して 井上 裕之(竹田分会)

別府鶴見丘分会の佐藤美香さんより、家庭科教育を取り巻く現状や日々の授業において大切にしていることが発表されました。

今回の学習指導要領の改訂に伴い、生涯の生活設定、乳幼児との関わり、高齢者の生活支援、防災、資産形成など新しい取り組みに対しても積極的な様子が伝わってきました。食育サイトで自分の食べた栄養状況を棒グラフで見たり、保育人形を使って妊婦になってみる体験をしたり、六角絵本の作成や読み聞かせを行ったりするなど、実生活との深いつながりを感じました。

家庭科授業アンケートでは、食生活や家庭経済への関心が高く、生徒から自立に関する質問が増えているように感じることでした。自分事として考えられる授業内容になっているか、他者の考えを知ることで新たな気づきにつながっているか、という佐藤さんの言葉が印象的でした。

グループ討議では、家庭科教員は1校1名配置が多く、教える内容は幅広い反面、相談体制に課題があることを話しました。また、他教科との関連性を大事にする意見やプライベートをさらけ出すことに対する気遣いが必要という話も出ました。

〈参加者の感想〉

- 各教科で指導時に大切にしている点が共通していたり違っていたりして、新しい気づきになるものが多くありました。
- 久しぶりに家庭科教育の分科会に参加して新鮮でした。また、自分のとりくみと比較してこれからのとりくみのヒントとなりました。参加者のいろいろな意見も参考になりました。



第10分科会

職業教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
検定と授業	藤井 鉄士	大分商業
脱炭素を図りながら、再生可能エネルギーで通学路の夜道を照らす取り組み ー日本経済新聞社主催の全国コンテストで「最優秀賞」を受賞！ー	佐藤新太郎 貫 正裕	大分工業
工業高校の教員で平和学習(フィールドワーク)をしてみた ~若い教員へ、戦争の記憶をつなげよう~	加藤 幸司 佐藤新太郎	大分工業

人間性を育む教育

甲斐 崇浩(津久見分会)

藤井鉄士さん(大分商業分会)の報告では、授業風景について発表してくれた。検定試験の合格率を上げる授業づくりも大事であるが、取得した資格の内容が理解でき、活用できる人間性を育てる授業展開の重要性を知らせてくれた。佐藤新太郎さん(大分工業分会)の報告では、大学や地域と連携しSDGsを踏まえた研究内容の発表であった。風力発電の製作を試み、複雑な課題も多かったが、生徒の可能性を信じ、一つひとつの課題を乗り越えていく指導に周りも感心していた。加藤幸司さん(大分工業分会)の報告では、平和学習の内容であったが、若い教員に戦争の記憶をしっかりと伝えていき、次の世代に語り繋いでくれた。話を聞くだけでも周りに教員がどんな思いで生徒を育てるのかを知ることができ、共通認識のきっかけとなり有意義な時間であった。

〈参加者の感想〉

- レポート1つひとつに意見を交換し合い、とても有意義な時間でした。
- 来年も、1名でも多くの人に参加してもらいたいです。

第11分科会

自治的諸活動と生活指導

レポートタイトル	リポーター名	分会名
13人の文化祭	清祐 義人	宇佐産業科学
朝清掃の取り組みから ~子供たちの主体的な活動の場面づくり~	西山 祐一	大分東

第20分科会

選抜制度と進路保障

レポートタイトル	リポーター名	分会名
高校の進路指導について考える ~18歳の選択~	渡邊 龍也	佐伯豊南

生徒の主体性を考える

清祐 義人(宇佐産業科学分会)

最初のレポートは、宇佐産業科学分会の清祐義人さんの「13人の文化祭」でした。昨年度末、閉校を迎えた国東高校双国校(前任校)の最後の文化祭を、最後の卒業生となる3年生がたった13名で従来とほぼ同じ規模で開催し、受け継がれてきた伝統を最後まで全うしたという報告でした。次は、大分東分会の西山祐一さんの「朝清掃の取り組みから ~子供たちの主体的な活動の場面づくり~」でした。報告者が朝早くに出勤し一人で行っていた校庭の清掃に、生徒に声かけをすることで徐々に参加する人が増えていった、という報告でした。その生徒の中から生徒会の役員を務める生徒も出てきており、清掃をとおして自主性が育ってきたのではないかと述べていました。最後は、佐伯豊南分会の渡邊龍也さんの「高校の進路指導について考える~18歳の選択~」でした。進路を決定する際、教師の紹介する企業を選ぶという傾向があることを指摘し、生徒の主体なき進路選択に疑問を感じ、卒業生の離職率や離職理由を調査して問題の所在を探究する内容でした。結びとして、入学時からキャリア教育を開始して就労イメージをもたせていくことで、生徒自らの意思で進路選択ができるようにする進路指導の必要性が説かれました。

〈参加者の感想〉

- いろいろな活動が次の活動につながっていくことが分かりました。
- 短時間でとても密な交流ができました。参加者がもっと増えると良いですね。

第13分科会 人権教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
日田地区解放学習会	長尾 秀之	中 津 東
主体性と評価	山香 康	中 津 北

第16分科会 両性の自立と平等をめざす教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
ジェンダーをめぐる日田三隈高校の取り組み	山田 知之	日 田 三 隈

人権とジェンダーについて考える 財前 博子(大分舞鶴分会)



第13分科会「人権教育」と第16分科会「両性の自立と平等をめざす教育」は、同じグループでレポート発表が行われました。

「人権教育」のレポートは、日田林工分会の長尾秀之さんの「日田地区解放学習会」と、持ち込みの中津北分会の山香康さんの「主体性と評価」の2本でした。長尾さんの日田地区での解放学習会を行うそのとりくみは、まさに地域に根ざした活動そのもので、今までの実績と関わってきた人々との信頼の上に成り立っていることを実感するものでした。山香さんは「主体的に生きる」重要性と「対話」の大切さについて、簡潔に伝わるレポートとなっていました。

第16分科会の「両性の自立と平等をめざす教育」では、日田三隈分会の山田知之さんが「ジェンダーをめぐる日田三隈高校の取り組み」について、レポート発表を行いました。今後の学校でのとりくみや自分の行動について素直にお話しされる姿に、生徒との関わりも同様に誠意を持ってされていることが伝わりました。短い時間でしたが、多くの質問や意見が交わされ、充実した教育研究集会となりました。

〈参加者の感想〉

- 教研の場はやはり楽しいし必要。ここでしか話せないことがある。
- 発表してくださる方は大変だと思いますが、レポート発表を聞くことで勉強になることが多く、その場での意見交換ができるのでとてもありがたいです。

第14分科会 障害児教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
はじめての支援学校で(雑感)	佐藤 立也	宇 佐 支 援
日出支援学校での教科教材の研究	亀井 和浩	日 出 支 援
「通級による指導」に対する意識と理解	土谷 充章	別 府 支 援
個別の指導計画作成業務の課題と改善について ～学びの履歴の活用をとおして～	阿部 佳子	南石垣支援
知的障害の特別支援学校における「特別の教科 道徳」 の授業実践 ～平和学習の取り組み～	牧 雅子	南石垣支援
関係機関と連携した進路指導 ～初任者の視点から～	泊り由美子	由 布 支 援
障害種を超えた教職員の学びについて	末永多香光	も う
特別支援学校養護教諭による性の学習の実践 ～まずは一歩踏み出してみる～	高津 仁美	大 分 支 援



8本全てに熱い思いが!

高津 仁美 (大分支援分会)

障害児教育分科会では、8本のレポートが出され、7名から発表がありました。

普通校と支援学校を人事異動する上での課題、学校規模による負担の種類の違い、子どもの実態に合った学習ができるための組織的などりくみ、熱い情熱と工夫がちりばめられた授業の実践…とレポートの内容は多岐にわたり、終日刺激的な時間を過ごしました。建設的な意見が多く出され、活発な会となりました。どのレポートにも共通して「子どもたちのために」という強い思いが伝わってきました。寄り添うために困りをしっかり知ること、法や制度の限界、学校施設古さ故の課題、多忙等、悩みは尽きませんが、みなさんがそれぞれの学校で懸命にとりくんでいる様子が感じられました。レポートの中にもあった「同僚性(互いに支え合い成長し、高め合っていく関係性)」というキーワードが心に残っています。この「同僚性」こそが教文活動であり、明日への活力となります。同僚性の素晴らしさを感じる充実した分科会でした。

〈参加者の感想〉

- 性教育を真剣にとりくんだレポート。平和教育を若い感性で作られたりレポート。印象に残りました。
- たくさんの熱意ある実践に触れて、すごく元気をもらえました。

第18分科会

平和教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
高校生1万人署名活動 大分2022	佐藤 立也	宇佐支援
科学的な平和探究を模索してみた	賀来 宏基	別府鶴見丘
弾圧のブルース	福田晃一郎	日田定時制



信じた実践をつなげることを共有する

賀来 宏基 (別府鶴見丘分会)

本分科会は、3本の実践が報告された。佐藤立也さん(宇佐支援分会)より、「高校生1万人署名活動 大分2022」と題して、「高校生平和大使」について高校生の活動をつなげていくとりくみが報告されました。今年度は日田からはじめて高校生平和大使として選出され、地理的な問題もあったが、サポーターも複数体制となり活動を広げられる体制になってきたそうです。「活動を通じて疑問を持てる人材になってほしい」との思いを強く語ってくれました。引き続き、賀来宏基(別府鶴見丘分会)が「科学的な平和探究を模索してみた」として、公民科の授業において、ロシアのウクライナ侵攻から多面的に戦争を分析させる実践を報告しました。従来の平和教育が感情的なところにとどまっておき、主体的に考える力がついていないのではないかという問題提起を行いました。3本目は、福田晃一郎さん(日田定時制)より、「弾圧のブルース」として、山下達郎さんの歌の歌詞を題材にしながら平和を考えさせたり、福田さん自身の平和教育への思いが語られました。生徒たちに平和について語り、考えさせる日常的な実践は心に響くものがありました。その後の討論でも、平和教育の実践を広げるためには様々な課題があるが、それぞれが信じた実践をつなげることが大切だ、ということが共有されました。

〈参加者の感想〉

- 参加人数が増えるためには、やはり組合員を増やすことでしょうか。開かれない分科会があると一般の参加も気持ちが悪くなるので、全分科会が開かれるように分会でもレポート提出の声かけをしていこう。県教研よ、永遠なれ!
- 教研に久しぶりに参加した。参加者が激減している印象。教研のあり方について議論する必要があると感じた。

第19分科会

情報化社会と教育・文化活動

レポートタイトル	リポーター名	分会名
読書推進のとりくみ ~杵高るるるプロジェクト~	晝間 まみ	杵 築
A2用紙を使った新聞スクラップポスター制作	深藏 剛	鶴崎工業
Microsoft Teamsを活用した図書委員会活動	深藏 剛	鶴崎工業

情報化社会の教育、学校図書館 阿野 卓也(爽風館定時制分会)



第19分科会は、リポーター毎の学校でのとりくみを、主に情報の発信について多方面(図書館自治の情報をアピールする、各メディアから発信される情報についての向き合い方等)から報告してもらいました。

生徒の読書量の調査や個人々の語彙力を分析して、その結果をもとに進路達成のために図書館の活用が必須であるという「情報の発信力」、また図書委員会の活動として新聞記事のスクラップに取り組むことで「情報の取捨選択」を Teams を活用したネットワークの構築で「情報の伝達効率や共有」に必要なツールの確保と我々(学校司書)自身のスキルの向上について、相互理解を深めました。

その後、討議の柱より、情報機器の学校での有効利用と生徒に対する読書指導を中心に議論を交わし、機器の利用に関しては、教員間で温度差があること、図書館報の配布や個別の生徒伝達には有効だが、それ以外の特別な利点は今のところ見受けられないとの意見が多数で、必要なのは使い手の意識であり、読書指導にもそれらを含めていくことを共有しました。

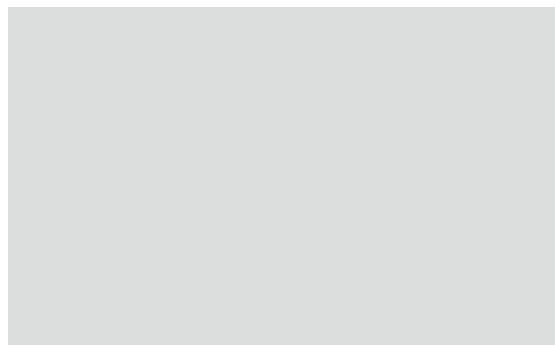
〈参加者の感想〉

- 読書量の少ない生徒に対して、いかにして読書の機会を作るかという方法を知ることができました。
- 自分のできていないところを突き付けられた。

第23分科会

教育条件整備の運動

レポートタイトル	リポーター名	分会名
私達の職名って?!	手嶋 映実 田畑 幸子	さくらの杜 高等支援 別府支援 石垣原
新卒者の「通勤手当」をめぐる報告	山田 憲昭	玖珠美山
特別支援教育支援員とSSWとSCと一緒に作るクラス	後藤 遥	佐伯豊南



収穫ある1日でした。

山田 憲昭(玖珠美山分会)

「Google フォーム」での人権アンケートがあった。職種を選択で「実習教諭」がなかったことに対するとりくみのレポートがあった。「寄宿舎教師」「介助員」もなかったそうである。少数職種の方々に対する扱いに関して、その悩みや怒りを共感し、行動する仲間でありたいと強く感じた。

佐伯豊南分会におけるクラスづくりは、特別支援教育支援員とSSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)とSC(スクール・カウンセラー)と一緒につくっているという実践のレポートであった。学年の担任・副担任の連携と情報共有、特別支援教育支援員・SSW・SCとの協力で生徒の学習が保証されている。今後も配置があるように、校長交渉でも確認されていた。

新卒者に対する勤務労働条件の説明が、コマ数と日数のみであった。4月初旬に「高速道路」代金が出ないと、総務事務センターから回答があった。しかし、たまたま本校と同じ条件で認められている職員がおり、高速代は認められた。

4名で3本のレポートを楽しく扱った。

〈参加者の感想〉

- レポート3本で、内容が非常に参考になった。参加して良かったです。来年は、分会から誰かを一緒に連れていきたいです。今回のレポートの還流報告を分会でしたいです。
- 実習教諭部の発表を聞いて、やっぱり組合は必要だと改めて感じました。

第24分科会

総合学習

レポートタイトル	リポーター名	分会名
総合的な探究の時間の取り組みについて	藪亀 尋子	国 東
「総合的な探究」の課題を課題解決したい	畑野 新司	杵 築

「総合的な探究の時間」の活動を通して ～2020年度の活動報告～	小野 輝枝	由 布
総合的な探究の時間における「玖珠町活性化プロジェクト」の実践	安部 祥子	大分上野丘
あなたもイベントプランナー ～爽風館高校のラボ活動2年目の挑戦～	糸永 伸哉	爽風館定時制

生徒も教師もワクワクの探求学習を 糸永 伸哉 (爽風館定時制分会)

- ①国東分会薮亀先生は、再来年度から全国募集も始まる状況下で、「総合的な探究の時間」が重視される現状と課題を提示した。地域との連携を大切に、長く続ける、生徒の自由度を高めるなど、「総合的な探究の時間」で大切にすべきことを伝えた。参加者からは、STEAMを取り入れるのもいいが、文系的な要素が取り入れられないという疑問が出された。
- ②杵築分会畑野先生は、3年の学年主任の立場から3年間を通して見えてくる課題を述べた。「無駄なことを学ぶ」という探究の時間の本質が、効率化を求める現場から受け入れられにくい現状が見えて、失敗してもいいという寛大さが必要ではないかとの意見も出た。
- ③由布分会小野先生は、前任の資料がほとんどない中で手探りでやってきたさまざまな学習の具体例を提示した。教員団の協力の大切さも確認され、自身の体験から防災の重要性を実感し教材化する先生の姿に、生徒や教師自身の探究の「動機」も大切だという声も出た。
- ④爽風館定時制分会の糸永先生の発表は、そうした教師自身のワクワク感が最も感じられるもので、これこそ探究学習であるという声もあがり、全国教研に向けての代表に選出された。

〈参加者の感想〉

- 4本すべてのレポートが参考になりました。現在「総合的な探究の時間」の担当をしていますが、もし自分が担当になったら、取り扱いたいものがたくさんありました。先生方の思いや大変さが十分に伝わってきました。
- やはり指導者が楽しくなければ生徒も楽しめないと思う。忙しいかもしれないが、目の前の生徒のことを考えて歩んでいきたい。

第25分科会

定時制・通信制・分校の教育

レポートタイトル	リポーター名	分会名
給食の灯を絶やすな! ～ウイズコロナ時代の給食について～	佐藤 洋一	中津東定時制
もっともっと定時制のこころ	横山新太郎	爽風館定時制
生徒Aについて	奥貞 知宏	大分工業定時制
やっぱりいいなあ日田定	日田定分会	日田定時制



食はいのち、教育は人 横山新太郎 (爽風館定時制分会)

山装う季節、25分科会はあったかいです。リポーターは4名です。①佐藤洋一(中津東定時制分会)、②奥貞知宏(大分工業定時制分会)、③福田晃一郎(日田定時制分会)、④横山新太郎(爽風館定時制分会)。①は、夜間定時制における給食の重要性を訴えます。中津東定の調理担当は会計年度職員2名のみで、生徒にとって不都合なことが諸々起きています。大問題です。②は生徒との関わりを綴った実践報告です。「付かず離れず柔軟に。」これぞ定時制教師のお手本です。③は日田定のあたたかさ、生徒をやわらかく包み込む空間であることが存分に伝わります。「教育は人」であることを改めて教えられました。④は「定時制のこころ」を叫びます。全日制と同じようなやり方ではなく、「定時制の作法」を求めてゆくべきです。コルチャック先生の教えを大切にします。

20代の若者からベテランまで7名集い、それぞれの思いや実践、各校の状況を語り合った25分科会でした。

〈参加者の感想〉

- 新型コロナウイルス感染拡大の中でやや変化している教育、その中で互いに日頃の実践を話し合える教研の場はとても大切だと感じます。
- 各分科会とも人数が少ないと感じたが、少人数ゆえのなごやかな雰囲気や居心地が良かった。一人当たりの発言の時間も

十分とれてよかった。

来年度新採用の方が参加してくれたことが、何よりもうれしいことだと思う。

その他にも、第7分科会「情報教育」に、畑野新司さん(杵築分会)より「情報の実習(Python版)まずは慣れよう！」のレポート提出がありました。

そして、1月末に開催される全国教研に、リポーターとして高橋貴子さん(別府翔青分会)、貫正裕さん(大分工業分会)、高津仁美さん(大分支援分会)、糸永伸哉さん(爽風館定時制分会)が、司会者として稲田雅史さん(別府鶴見丘分会)、佐藤新太郎さん(大分工業分会)、小野陽子さん(別府鶴見丘分会)が参加します。

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模を縮小して開催しましたが、県下各地から集い、日頃の実践を発表したり協議したりして、充実した時間となりました。

運営委員、リポーター、参加者のみなさん、大変ありがとうございました。来年も、多くのレポート・参加をお待ちしています。

参加者のみなさん
